

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	・小学校段階の漢字について確実に身に付ける必要がある生徒が2～3割いる。漢字を用いず、平仮名で書く習慣が付いている。 ・語彙力の不足から、自分の考えを文章で説明する力、助詞の使い方に課題がある。 ・平易な言葉に置き換えて説明を加えないと理解が厳しい。	・昨年の学習事項が定着していない。特に、漢字、ひらがなを含めた読み書きが苦手である。 ・語彙力が不足しているため、作文等がうまくまとめられない。 ・自分の考えを書くことで表現することについて、丁寧な指導が必要な生徒がいる。	・既習事項が定着していない。どの生徒も適切な表現で書けるように丁寧な指導が必要である。 ・自分の考えを具体的に分かりやすく伝える力に課題がある。特に作文や発表に対する力を付けていく必要がある。 ・1年生からの学習の積み重ねが不足している生徒が学びなおす手だてが必要である。
学習状況	・書くことや発表に苦手意識をもつ生徒はいるが、授業に意欲的に取り組み、理解しようと努力する姿が見られる。 ・人前での発表には抵抗があるが、ICTを活用しての発表では全員が意欲的に取り組むことができた。段階を踏んで対面での発表に抵抗がなくなるよう運びたい。 ・漢字テストは小学校1～4年既習のもので、同じテストを2回ずつ行っているが、2回目に満点をとれない生徒が一定数いる。	・漢字に関しては、どの生徒にも毎回のテストに向けた学習への取組を定着させる必要がある。そのため、語彙力が定着に向けた指導をしていく。 ・グループ活動を通じた学習に対しては、とても意欲的に取り組んでいる。しかし、全体に対しての発言に偏りがある。 ・ノートのまとめ方などの工夫に差が出てきている。	・書くことや発表に苦手意識もあるが、授業中の課題には意欲的に取り組む生徒が多い。 ・自分の考えや他の生徒の発言等をノートにまとめられる生徒が増えた。一方で、書くことに集中しすぎてしまう生徒もみられる。必要な情報を復習できるようにまとめて記述する力を向上させたい。 ・主体的に発言・発表する生徒に偏りがある。
指導上の課題	・要約を繰り返して基本的な読み取る力を付ける。 ・「主体的・対話的で深い学び」につながる話し合い活動の仕方を身に付けさせること。また、話し合いの中から自身の考えを再構築する力を身に付けさせる。 ・問いに対する答え方や文章の書き方など、「型」を定着させる。	・本時の学習の目的を理解させる。 ・身に付けさせたい国語の力を生徒が理解するように授業を組み立てる。 ・国語の読解に必要な基礎知識を高めること。 ・3年間の基礎になるよう授業を組み立てる。	・主体的に学ばせるために見通しをもった課題設定や発問を行う。 ・情報を整理してまとめるための読み方・まとめ方を定着させる。 ・学習活動の中で既習事項の確認もできるように課題を工夫して取り組ませる。 ・漢字や文法などの言語に関する知識・理解と基本的な読解力を高める。

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	・要約を通して読み取る力を付け、主体的な学びをするための基礎を作る。 ・主体的・対話的で深い学びに繋げる手立てとして ICT を活用した話し合い活動を設定し、思考を再構築させる。 ・授業や定期考査で問いに対する答え方や文章の書き方など、「型」を定着させる	・学力の差を埋めることができるような課題設定や、発問の工夫を行い、全員が考えを深める時間にする。 ・「主体的・対話的で深い学び」になるように、ICTを用いて自己の考えを共有させ、より深い学びとする。 ・日々の学習を定着させるために、e-ライブラリを活用させていきたい。	・単元の目標を達成するなかで、基礎的・発展的な力を身に付けることができるように課題設定を行う。 ・より深い学習が達成できるように、ICTを活用した・小グループによる学びの機会を多く設定する。 ・授業ごとの漢字テストや語彙力を付けるテストに取り組むなかで家庭学習の習慣を身に付けさせる。
評価方法	・「単元の目標」、「今日のめあて」を明確に提示し、課題に対しどのように取り組めたか、どんな力が身に付いたかを生徒自身に考えさせる。 ・主体的に学ばせるために見通しをもった課題設定や発問を行う。	・生徒本人が学びを理解するように、授業の「めあて」を提示し、生徒に理解させ、学びの振り返りにつなげる。 ・発問を端的にかつ、適切なタイミングで行い、学びを促進させる。	・各時間のテーマを明確に示すとともに、課題についての自分の考えを確認し、他者と共有させる。 ・各単元の身に付けるべき力を明確かつ簡潔な言葉で提示する。 ・主体的かつ見通しをもった取り組みにつながる課題設定を行う。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	・学習意欲や新しいことを知ることに対しては意欲的な生徒が多い。多面的・多角的に考察する力や粘り強く考える力、他者と協力して納得のいく答えを考える力などにおいては多くの課題が残る。	・4月当初、1年時に比べて積極的な発言が少なかった。課題や主体的な学びなどで、学力の向上が見られる生徒が出てきた。	・社会科の土台となる地理・歴史の知識を粘り強く学習していく必要がある。ある程度の知識を得ることによって、思考力が養われるので、今後もグループワーク等を行って養っていく必要がある。
学習状況	・授業内での学習への取り組みは努力が見られるが、家庭学習などで知識を定着させるための時間の確保については不十分である。	・過半数の生徒は、学習に意欲的である。ただし、暗記型の学習により、思考力養成について逆効果になる生徒もいる。また学習習慣がなかなか定着しない生徒もいる。	・受験を意識した生徒が増えてきているため、授業に主体的に取り組む意識が高くなってきている。生徒の意識の変化を大切に、今後の指導につなげていく必要がある。
指導上の課題	・知識を伝えるための時間と、考える力や協力するための力を育成するための時間のバランスや配分を一層工夫していく必要がある。	・漢字の読み書き能力の低下や、論述問題に対する、表現力の低下などが目立つ。また、社会科で最重要とも言われる、「調べる力」を身に付けることも急務である。	・「ただ覚えればいい」という考えから「なぜそうなったのか」という論理的思考につなげていくことが今後の課題である。

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	・ワークシートや発表活動、生徒同士の他者評価、自分内評価など、様々な方法を評価に加えていく。	・検索したことを丸写しして終わるのではなく、記述の内容を理解し、そこから、疑問点を見付け、考え、推理により発見したこたえを、論理的に表現する喜びを感じる機会をつくる。	・レポートに関しては、調べた事象について、自分自身の考えを記述させる。主に「思考」の観点を見取る。
評価方法	・ペーパーテストの点数に留まらず、授業内での取り組みや生徒自身の変化を見取る方法を一層工夫していく。	・社会科用語を書くことができるか、資料集等で調べることができるか、主語・述語がととのった論理的な文章で説明することができるかなどを評価する。	・ペーパーテストだけでなく、レポートの提出からも、「知識」や「思考」の観点を見取っていく。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学 力 分 析	・正負の数、文字式ともに四則演算は行うことができるが、四則が混じった計算では不注意による誤りが多い。 ・問題文から情報を適切に読み取り、式に表したり説明したりする力を身に付ける必要がある。	・1年次の正負の数や文字式のルールがあいまいな生徒が全体の20パーセントほどいるため、2年次の式の計算や連立方程式の計算問題の理解が難しいことがある。 ・文章問題を読み取る読解力や説明する力を身に付けさせたい。	・全国学力学習状況調査の結果から、「関数」については傾きの深い理解、「データの活用」についてはデータを比較して説明する力が、全国平均より下回っていることが分かった。その他の項目は全国より上回っていた。
学 習 状 況	・授業は集中して取り組んでおり、その後の問題演習では正しく解くことができているが、ある程度時間が経って、確認を行うと定着が不十分な生徒がいるので確認が必要である。 ・家庭学習の習慣が付いている生徒と、まだ身に付いていない生徒の差ができている。	・多くの生徒は数学に対して苦手意識をもっているように感じる。 ・授業内の学び合いの活動では、積極的に学び合うことができている。 ・計算問題には、多くの生徒が取り組むことができるが、文章問題や証明には手が止まる生徒が多い。	・多くの生徒の授業への取り組みや、小テストへの取り組み状況がよい。しかし、応用問題に関して、指導を丁寧に行う必要がある。
指 導 上 の 課 題	・ICTを用いた授業展開が少ないと感じた。 ・説明を聞くときに、ノートを書くことに集中し過ぎている生徒が見受けられる。 ・生徒の興味がそそられる様な授業展開を行う。	・習熟度別の授業を展開しているが、その中でも習熟度の差があるため、特別課題やeライブラリの利用を促す必要がある。 ・数学への興味関心をひくような授業や、数学的な見方、考え方を養うことができるような授業を行う。	・授業時間の中で主体的に学ぶ時間（グループ学習の時間など）が少ない。 ・応用問題を解くための基礎知識の復習や導入の工夫が必要である。

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改 善 計 画	・ICTを使った授業展開を行い生徒の興味をひくような授業展開を行う。 ・机間指導を行い生徒一人一人に目を向け、急ぎすぎないペースで学習に取り組ませる。	・学び合いの活動を増やし生徒自身に活動する時間を増やす。 ・生徒個人のレベルにあった課題を設定させ、授業内で取りまとめる。	・基本的な内容の小テストを今後も行い、応用問題を解くための基礎知識の定着を図る。 ・応用問題に粘り強く取り組む手立てとして、学習プリントを活用したり、グループ学習の時間を適宜とったりする。
評 価 方 法	・単元ごとにレポートを作成させ主体的に取り組む態度を評価する。 ・定期的に小テストを行い、生徒それぞれの「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を評価していく。	・単元ごとのレポートやワーク、小テストなどで主体的に学習に取り組む態度を評価する。 ・定期テストや単元ごとのテストで「知識・技能」、「思考・判断・表現」を評価する。	・小テストを行い、数学に対する主体性や「知識・技能」、「思考・判断・表現」の力を評価し、授業展開を考えていく。 ・授業内の課題で、自身の考え方の説明状況から評価していく。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	・定期考査と単元テストの解答状況から、器具の使い方や分類の基礎知識など、「知識・技能」の定着は比較的高いことがうかがえる。その反面、科学的な思考を要する問題への正答率が低く、与えられた情報を分析する力を伸長させる必要がある。	・定期考査の解答状況から、重要な語句等の知識問題はしっかりと答えられる生徒が多いことが分かる。 ・思考課題への解答状況から、第1学年の時と比較して思考力が高まっている。	・授業アンケートの回答の傾向から、授業への取り組み姿勢は前向きであると考えられる。学校の定期考査と復習確認テストの結果の乖離が大きく、学習内容の定着が短期的なものになっている生徒もいる。
学習状況	・授業の様子とアンケートの回答状況から、授業へは前向きに取り組んでいることがうかがえる。器具の使用法や観察・記録の方法など、授業に積極的に取り組んでいる生徒が多い。	・理科に対する学習意欲は第1学年の時から引き続き、高く保持している。 ・冊子の問題集を導入したことにより、基礎事項の理解は深まっている。	・学習に意欲的な生徒が多いものの、実験やグループワーク他者と協力して行う学習に関しては、積極的に行う生徒は少なく、アンケートからもその傾向がうかがえる。
指導上の課題	・与えられた課題に対しては良く取り組んでいる生徒が多いが、自分で課題を発見して、解決の手順を考えることについては多くの生徒に課題がある。 ・日常生活と学習内容を結び付けて考えようとする生徒が少ない。	・重要語句を覚える学習はできているが、例えば化学反応式の仕組みを理解し、自分でも書けるようにする等のより深い学びまでは達していない生徒が多い。 ・思考課題において、自分の意見を発表しようとする生徒の割合が減ってきている。	・実験等の結果から考えられる考察を深める力を高めるために、自分の考えを文章にして、話し合いや発表などの言語活動を充実させる必要がある。 ・1、2年生の内容の復習も授業と並行して行う必要性に気付かせる必要がある。

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	・授業の導入に身近な現象を用いることを1学期以上に増やし、学習内容が日常と密接につながっていることを意識させながら授業を行う。 ・第一分野の学習では実験レポートの作成方法の指導を綿密に行い、「思考・判断・表現」の力を高めていく。	・例えば化学反応式のような理解して活用するのに困難を要する内容に関しては、演習する時間を確保するとともに、家庭でどのように学習すればよいかの助言も行う。 ・班単位での話し合いの機会の割合を増やし、一人一人が発言できる機会を増やしていく。	・理科と日常生活との関わりを題材にし、興味・関心を高めるとともに、科学的思考力を深める。 ・授業内での生徒間のやり取りを増やし、アウトプットをする場面を増やし、知識の定着と理解を深めさせる。 ・家庭学習を充実させるため、学習者用端末の活用を進める。
評価方法	・単元、章ごとに確認テストを行い、「知識・技能」の定着を確認する。 ・実験レポート、観察レポートを通して、課題解決の力がどの程度身に付いているか確認をする。	・思考課題に対する考えを毎回評価し、生徒がどの程度深く考えられているかをその都度確認する。 ・難しい内容では、理解度を確認するための小テストを行っていく。	・観察、実験のプリントの、「結果、考察、まとめ、感想」の内容を確認する。 ・単元テストを行い、「知識・技能」の定着を確認する。 ・ワークの取り組み、振り返りを定期的に確認する。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学 力 分 析	・表現活動において、歌唱に意欲をもっている生徒が多くいる。 ・文章表記（鑑賞文など）については、苦手とする生徒がいる。	・クラスによって雰囲気異なるが、前向きな姿勢の生徒が多い。 ・楽典（音符と休符の長さの割合、諸記号）は、苦手としている生徒に対しての手立てを工夫する必要がある。	・歌唱活動において、意欲的になる生徒が多くなった。 ・西洋音楽史、楽典などの知識に関することには、「これは分からない」と苦手意識をもっている生徒がいる。
学 習 状 況	・すべての音楽活動に前向きに取り組んでいるが、基礎知識（音符と休符の長さの割合など）を理解するのに時間を要する。	・新曲にも意欲的に取り組む。歌唱活動において、リーダーが存在する。 ・提出物等はしっかりしている。	・響きのある声を工夫するリーダー的な生徒が雰囲気をつくっている。 ・深く考えることが苦手である。
指 導 上 の 課 題	・表現するという活動は雰囲気が重要なので、心を開放させて伸び伸び活動できるようにしなければならないこと。 ・基礎知識（音符と休符、記号など）に関しては、理解不足の生徒に対しての手立てを考える必要性がある。	・強制ではない歌唱活動の雰囲気をつくること。 ・音楽科の基礎については、理解の困難な生徒のための手立てを工夫すること。	・より高い芸術性を目指す生徒の意欲を引き出すための働きかけを工夫すること。 ・知識についての解説が急ぎ足になると、理解に結び付かない場合が多くなるので、気を付けること。

【授業改善の手だて】

	第1学年	第2学年	第3学年
改 善 計 画	・範唱を丁寧に行い、響きを感じさせ、それを実践する意欲を育てる。 ・知識の基礎を定着させるために、練習用のワークシートを毎時間用意して取り組ませる。	・音楽活動の意欲を喚起するべく、範唱範奏、明るく開放的な雰囲気をつくる。楽曲のよさについて、学習者用端末等を使用して感得させる。 ・基礎知識についてのワークシートを毎時間用意して取り組ませる。	・声の響き、曲想を意識して歌唱表現するような技術的な助言をしながら指導する。 ・音楽史の練習問題に繰り返し取り組ませて理解につなげる。音楽史は学習者用端末にて画像で説明をする。
評 価 方 法	・実技テストにて、個々の歌唱力を評価する。 ・ワークシート類を点検し、基礎の理解度を確認し、評価する。 ・定期考査に出題して理解度を確認し、評価する。	・実技テストにて、個々の歌唱力を評価する。 ・ワークシート類の記述等を点検し、評価する。 ・定期考査に出題して理解度を確認し、評価する。	・実技テストにて個々の歌唱力を評価する。 ・ワークシート類を点検し、記述内容や理解度を確認し、評価する。 ・定期考査に出題して理解度を確認し、評価する。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学 力 分 析	・ほとんどの生徒が意欲的に学習に取り組んでいる。 ・美術の専門的な知識について、興味関心の強い生徒が多い。	・発想し、課題へ意欲的に取り組める生徒と苦手としている生徒の二極化が見られること。 ・自分の意図や感じたことを言語化できる生徒が多い。	・課題制作に向け、地道に努力できる生徒が多いが、思考を深めたり既習事項を応用したりすることが苦手である。
学 習 状 況	・定期テストの結果から、既習事項の定着が弱いことが見受けられる。 ・短時間での基礎的学習に取り組む、おおむね基礎的な技術は身に付けてきた。	・定期テストの結果から、既習事項の定着が弱いことが見受けられる。 ・アイデアをアウトプットする際、知識を活用できず表現することを苦手としている。	・アイデアをアウトプットする際、知識を活用できずうまく作品に表現されていない。
指 導 上 の 課 題	・制作に時間を充てるために振り返りを毎時行えていない。 ・班隊形の机のため、作業と教え合いのメリハリを付ける必要がある。 ・支援が必要な生徒への合理的配慮として、課題の難易度に幅をもたせる必要がある。	・制作に時間を充てるために、知識の学習をする時間が十分に取れていない。 ・制作の進捗に差が生じている。 ・支援が必要な生徒への合理的配慮として、課題の難易度に幅をもたせる必要がある。	・時間をかけて制作を行う際、初めに確認したねらいへの意識が薄れてしまっている。 ・制作の進捗に差が生じている。 ・時数の変動や、生徒の実態により制作時間が計画通り進まず、生徒自身も見通しがもてていない部分がみられた。

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改 善 計 画	・振り返りの内容を簡易的なものとし、まずは取り組みの習慣化を図る。 ・個人作業と意見交換の時間をそれぞれ設定し、区別する。	・スライドや映像、書き込み済みのプリントを使用するなど、知識伝達の効率化を図る。 ・標準的なワークシートその他、補助的なワークシートを作成し、希望生徒が活用できるようにする。	・スライドや映像、書き込み済みのプリントを使用するなど、知識伝達の効率化を図る。 ・本時の目標を示すとともに、題材を通しての目標を確認し、身に付けるべき知識、技能を理解させる。
評 価 方 法	・授業内で、必要に応じて復習や小テストなどを実施し、必要な知識が定着しているかを確認する。 ・毎時の振り返りから、作品写真とともに、進捗、創意工夫・生徒自身が学び取ったことを見取る。	・授業の取り組みや振り返りから、補助資料を活用したり、助言を参考にしたりするなど、制作を円滑に行うために多様なツールを選びとれているかを見取る。	・授業の取り組みや振り返りから、予め制作計画を立てられているか、立てた計画に沿って制作、または調整ができていているかを見取る。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学 力 分 析	・運動に主体的に取り組む生徒が増え始めてきた。学習カードの記入など、自己を分析して課題解決を図ることが苦手である。ICT を使い学習した内容を、言葉や文章で表現する力を身に付けさせる。 ・ねらいや振り返りを行い各単元で知識と特性の理解の定着を目指す。	・運動に主体的に取り組む生徒が多い。学習カードの記述内容については昨年度から向上が見られる。 ・班学習では積極的に意見交換を行う生徒が増えているが、意見の活用や深める時間が必要である。 ・単元特性や知識の理解については、より深める必要がある。	・運動に主体的に取り組む生徒が多い。 ・学習カードの記入において、毎時間の活動を分析して、自分の考えを表現できる生徒が増えてきている。 ・ルールや競技に必要な知識について、よく学習している。
学 習 状 況	・集団行動や授業規律が定着しつつある。 ・仲間と共に学習し、運動への向上意識は芽生え始めている。さらに共有する場を設定し、理解を深める。 ・男女共習でお互いの良さを認められるようになった。	・授業規律は定着しており、健康や安全への意識が高い。 ・周りと協力して準備や片付けができ、運動量の確保もできている。 ・技能向上にむけた、学び合いが活発に行われているが、自信をもって助言のできる生徒が少ない。 ・ICT 活用場面が少ない。	・集団行動をはじめ、授業規律における意識は高い。 ・男女共習において、分け隔て無く協力する姿が見られる。 ・話し合い活動を積極的に行うことができる。 ・自分たちで考えて練習やゲームを行うことができる。
指 導 上 の 課 題	・具体的で分かりやすい説明を心掛け、主体的かつ積極的に活動できる環境をつくる必要性がある。 ・話し合い活動を取り入れ、自ら考え行動できる場面を設定する必要がある。 ・学習カードの書き方の助言が必要である。 ・ICT の活用をしていく。	・授業の目標確認及びまとめの時間を増やす必要がある。 ・技能向上に向けた学び合いでは、助言の仕方を学ぶ必要がある。 ・学習カードの記述について、全体で共有し、生徒同士が良い部分を取り入れることができるようにする。 ・ICT の活用を行う。その際には運動量とのバランスを十分考慮する。	・より分かりやすい説明を心掛け、積極的に活動できる環境をつくる。 ・話し合い活動を取り入れ自ら考え行動できる場面を設定する。 ・自分たちで話し合いながらゲームを行ったり、練習の工夫をしたりできるようにする。 ・ICT の活用をしていく。

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改 善 計 画	・授業規律の徹底を継続する。 ・男女共習により、互いの学びができる話し合い活動をより活発に行わせる。 ・ICT の活用と運動量を両立させる。 ・ワークシートを活用し、自己の振り返りを行わせる。 ・安全への配慮をさらに徹底する。 ・個々の違いに応じた課題や挑戦の機会を設定する。	・ICT の活用に向けて、体育では自らの動きの振り返り、保健学習では考えのまとめや発表などの機会を充実させる。ICT の活用場面と運動学習場面は単元を見通して設定する。 ・班活動での学び合い・話し合いの場面では、着眼点を絞って提示し、目的を明確にし、共有を丁寧に行う。	・生徒一人一人にとって分かりやすい説明を心掛ける。 ・話し合い活動では、お互いの技能を高められるよう、話し合うポイントを示すようにする。 ・ICT を活用し、図や動画で示すことで視覚的に理解できるようにしていく。
評 価 方 法	・授業への取り組みやワークシートの記入状況、定期テスト等から変容をみる。 ・仲間への声掛けや助言、協力、支援の状況を確認する。	・生徒の実態及び授業改善の成果について、学習カードの記入状況を定期的に把握し、確認する。 ・毎時間の生徒の様子を観察し、変容をみる。	・毎時間の生徒の取り組みや様子から変化を見る。 ・授業への取り組みや個人の変化の様子を、毎時間の学習カードの記入内容から確認する。

令和6年度 授業改善推進プラン

＜教科名 技術＞

小平市立小平第五中学校

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学 力 分 析	・授業に積極的に取り組む生徒が多く、ペアワークなども協力して授業に参加できている。 ・初めての期末考査では、テスト勉強に取り組んでいる生徒はよくできていたが、うまく取り組めなかった生徒もいた。	・1年次は製作なども積極的に取り組んでいる生徒が多かったが、2年生に進級し、授業に集中することが課題である。期末考査の結果もありよくなかった。	・授業に集中し、よく取り組んでいるが発言などが少ない。 ・3年生になり、よく勉強しており、期末考査の結果もよくできている生徒が多かった。
学 習 状 況	・1学期は道具の使い方や図の書き方などに積極的に取り組み、2学期に行う木材加工の製作に向けて、主体的に取り組んでいける生徒が多い状況である。	・はんだ付けの仕方など、実習に積極的に取り組み制作意欲が高い生徒が多い。授業に集中して取り組めているが提出物などが出ていない生徒が多い。	・3年生になり集中して授業に取り組んでいる生徒が多い。制作意欲もあり、提出物などもよく出せるようになってきている。
指 導 上 の 課 題	・製作にあたり、組立ての手順がとても大事になってくるので、失敗をしないように、仮組立てから、作業工程をしっかりと考えさせていく。失敗をした時の解決方法も事前に提示して自分の力で完成できるようにしていく。	・生物育成に関することと、エネルギー変換に関する技術を同時並行に取り組んでいくので、1回の授業でどこまで授業を進めるのかをよく検討し、授業準備を行う。 ・特に生物育成の技術に関しては、学期の初めに行う。	・授業時数が少ないので問題解決に関わるワークシート（プログラミング）は課題として提出し、授業でははんだ付けなどの電子基板の製作や組立てなどの作業が進められるように、効率的な授業に取り組んでいく。

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改 善 計 画	・個別で生徒の進み具合によって、よい作品のポイントの検討と手順を考えるようにすると手順検討の重要度が伝わらないので、一斉授業の中で時間をとって考えられるように計画しておく。	・大根栽培の種まきから間引き、追肥までは時期も大切になってくるので、計画的に取り組めるようにする。場合によっては適宜授業変更なども行う。	・2学期が始まって、早めに課題を提出し、プログラミングの検討ができるようにする。作業の前にプログラミングの座学が終わるように計画する。
評 価 方 法	自分で組立ての手順を検討し、その手順をもとに製作品を完成させられているのかを、その過程と製作品で評価していく。	・大根栽培に関しては管理技術として、観察の記録の提出と栽培物に対しての具体的な作業の取り組みや今後の見通しの記述などで評価をしていく。 ・ラジオ作成に関しては電子基板の完成や工具の使い方などの評価を行う。	・オーロラキュートの製作では、はんだごての使い方や電子基板の完成状況で評価を行う。 ・プログラミングでは、問題発見とその解決ができるようなアルゴリズムであるかを読み取り評価していく。

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学力分析	・食生活についての関心は高いが、基礎的知識の理解は不十分な傾向がある。 ・学習内容と実生活と関連付けることはできているが、生活の中で実践することで身に付けられるとよい。	・衣生活に関しては関心の高い生徒もいるが、一方で興味関心の低い生徒もみられる。 ・自分自身の生活の中で身近な問題を見付けることができる。	・消費生活についての関心をもって取り組み、基礎的な知識の理解ができている。 ・学習したことを実生活に置き換え、自分の生活との関わりを深く考えることが苦手な生徒もいる。
学習状況	・多くの生徒が落ち着いて、意欲的に学習に取り組むことができている。 ・ワークや課題の記入状況もよい。 ・生活の中で課題を見付け、解決するために必要な深く考える力、思考力を高める必要がある。	・落ち着いて学習に取り組んでいる生徒もいるが集中力の継続が得意でない生徒も多く、課題である。 ・ワークや課題の記入状況はよい。 ・平面から立体をイメージする想像力を高める必要がある。	・多くの生徒が落ち着いて、意欲的に学習に取り組む、集中して取り組んでいる。 ・ワークや課題の記入状況もよい。 ・より深く思考する力を高める必要がある。
指導上の課題	・基礎的な知識を定着させる復習時間が少ない。 ・学習の目的（めあて）の確認やまとめの時間が短い。 ・実生活での経験の差が大きいため、安心・安全に実習を行えるよう配慮が必要である。	・学習内容を理解し、実習、課題に前向きに取り組む意欲を高める必要がある。そのために、ICTを活用した主体的に進める授業展開を行う。 ・実生活での経験の差が大きいため、安心・安全に実習を行えるよう配慮が必要である	・学習の目的（めあて）の確認やまとめの時間が短い。 ・グループワークや学び合いによって学習課題を解決できる場面が少ない。

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改善計画	・本時の目標を明確に分かりやすく提示し、振り返り時間を確保する。 ・基礎知識の定着を高めるために、ICTを活用し、基礎的・基本的な知識の復習を充実させる。 ・調理方法や安全への配慮をイメージできるように、デジタル教材などの視覚的資料を用いて分かりやすい授業を行う。	・本時の目標を明確にし、見通しをもたせた展開にする。 ・実物見本、学習者用端末を活用し、実習や課題に前向きに取り組みやすいよう、自分で計画し実践する授業を取り入れる。 ・想像力を補うために、ICTを活用した視覚的資料を多く用いる。 ・個別指導を通して基礎、基本の定着と集中力の維持を支援する。	・本時の目標を明確にし、見通しをもたせた展開にする。 ・授業のグループワークなどの言語活動を充実させ、学習課題を解決できる場面を設定する。 ・つまずきの見られる生徒には個別対応をし、基礎的・基本的な学習内容を習得させる。
評価方法	・振り返りの記入内容 ・実技の取り組みの様子 ・定期考査の結果 ・生活アンケート	・振り返りの記入内容 ・実技の取り組みの様子 ・定期考査の結果 ・生活アンケート	・振り返りの記入内容 ・授業の取り組みの様子 ・定期考査の結果 ・生活アンケート

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学 力 分 析	・定期考査においては7割以上の平均点となったが、各単元の小テストにおいては平均点が約6割となっている。この乖離は、定期考査の準備期間以外の学習時間不足を示している可能性があり、生活アンケートからも、普段の学習時間が1時間未満の割合が4割以上と高く、家庭学習時間の確保に課題がある。	・短い文や会話には慣れているが、まとまった英語を聞いたり読んだりすることに慣れていない。また、英語の語順、文法、語法を苦手としている。	・授業中に行ったアンケートでは、「話すこと」に苦手意識を感じている生徒が7割以上いる。定期考査では、4割の生徒が1・2年の文法事項の定着に課題がある。普段の学習時間が1時間未満の生徒が2割おり、授業時間外での取組に生徒間で差がある。
学 習 状 況	・生活アンケートから、9割以上の生徒が「積極的に授業に参加している」と答えている通り、英語においてペア活動や音読練習等、真面目に取り組んでいる生徒が多い。 ・英作文等、語順や文法を意識しながら回答する問題は苦手な生徒が多いので、小テストが終わる毎に苦手な問題の振り返りを行うようにする。	・音読やペア、グループワークで英語を使おうと努力し、ねばり強く課題に取り組もうとする生徒が多い。 ・家庭で自ら課題を見つけ復習をする習慣が身に付いていない。	・3学年になり授業には意欲的に取り組んでいる。また、ペアワークも友達と協力しながら活動している。授業や家庭で英文を読んだり書いたりする習慣が付き、結果が出て自信につながっている生徒もいる。 ・主体的に学習に取り組むことに課題のある生徒がいる。
指 導 上 の 課 題	・平均以上に課題をこなせる生徒には、随時モチベーションも高められるような声掛けを行う。理解度の低い生徒には個別最適化された課題を提示できるよう、少人数を受け持つ教員と情報共有する必要がある。	・まとまった簡単な英語のできるだけ英語で理解できるようなトレーニングが必要である。 ・英語を聞いたり読んだりしたときに、できるだけ英語で理解できるように、聞くことと読むことを繰り返す必要がある。 ・家庭学習に自ら取り組める姿勢を身に付けさせる必要がある。	・5ラウンドシステムを取り入れ、教科書を5周繰り返し学習することで定着率を意識した授業を行う必要がある。 ・会話練習、3分間の英作文を通して、定着した言語材料をアウトプットする活動をすることで、上達に気付ける仕組みづくりが必要である。

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改 善 計 画	・宿題確認時や、パターンプラクティス時に、積極性が見える生徒へのポジティブフィードバックを欠かさず行う。 ・課題のある生徒へのラインズeライブラリの活用を促進する。	・パターンプラクティスのできるだけ多くパターンをインプットしていく。そして、インプットしたものを状況に合わせてアウトプットする練習を授業に組み込んでいく。	・英語でのインタラクティブな授業を通して、意欲的に英語を使う環境をつくっていく。また、2学期からはペア・グループでのリテリングに取り組み、表現活動を増やしていく。
評 価 方 法	・ノート記述課題 ・パフォーマンステスト ・定期考査 ・授業内での取り組み ・スペリングコンテスト	・課題 ・パフォーマンステスト ・定期考査 ・授業内での取り組み	・英作文、記述課題 ・パフォーマンステスト ・定期考査 ・授業内での取り組み ・スペリングコンテスト

【生徒の実態】

	第1学年	第2学年	第3学年
学 力 分 析	・道徳的価値は何かという自分の考えをもっている、他者はそれと異なった考えがあることに気が付くことが大切である。	・道徳的実践力は個々に差があるが、テーマを意識した学習ができる。内容を深く考え、自己の考えや思いを記述できる生徒が多い。	・資料を読み、道徳的価値に迫る思考をすることには個人差があるが、自己の考えや思いを記述できる生徒が多い。
学 習 状 況	・自分の考えを文章として記述ができていても、それを積極的に表出できる生徒と苦手な生徒がいる。 ・授業内で取り扱った教材をもとに考えを深め、最後に自己を振り返って道徳的価値観を考えられている生徒が多い。	・自分の考えや気持ちを文章に表現し、他者に伝えることができる生徒が多い。 ・小グループでは積極的な発言が多く見られる。全体の場合でも、積極的に挙手をし、発言できる生徒がいる。	・自分の考えを文章で表現し、グループ内で活発に意見交換ができる。 ・「ココログ・ノート」の振り返り欄に、授業内で感じたことや気付いたことを書き、自分と向き合うことができている。
指 導 上 の 課 題	・映像教材や葛藤教材など、生徒が興味関心をもちやすい教材を上手に活用すること。 ・道徳科の授業の時間だけでなく、すべての教育活動と関連付けて生徒の道徳的実践力を養っていくこと。	・指導内容を押し付けないように、生徒自らが道徳的価値を見いだせるような授業の工夫をすること。 ・道徳的実践力を養うために日常生活と結び付け、継続的な指導をすること。	・生徒が考えを深められるよう、教材や導入を工夫すること。 ・道徳的実践力を養うために日常生活と結び付け、卒業後の社会的自立を目指した指導を行うこと。

【授業改善の手立て】

	第1学年	第2学年	第3学年
改 善 計 画	・小集団での話し合いと個人作業をバランスよく取り入れ、多様な意見と触れられるようにする。 ・ICTを適切に活用し、意見の表出が難しい生徒の考えも、全体で共有できるようにする。	・話し合い活動の時間を増やし、自己の考えと他者の考えを比較・検討しながら様々な価値観を認める態度を養う。 ・ICTを適切に取り入れる。	・ペア学習や少人数での活動の場面を増やし、 <u>自己の考えと他者の考えを比較しながら様々な価値観を認める態度を養う</u> 。 ・ICTを適切に取り入れる。
評 価 方 法	・ワークシートやロイロノートの記述から、多様な考えにどれだけ触れることができたか、また自己をどれだけ深く見つめることができたかを評価する。	・自己と向き合い、考えることができたか、発表内容や道徳のワークシートとの記述内容から確認し評価する。	・「ココログ・ノート」への記入内容、意見発表、学習者用端末への入力内容からどれほど深く考えることができたかを評価する。